

## 大阪市中央公会堂

写真は鶴舞（つるま）公園にある「名古屋市公会堂」。昭和天皇ご成婚を祝し、名古屋市の記念事業として起工され、昭和 5(1930)年に開館した。こげ茶色のタイルで、どっしりと重厚な感じである。東京の日比谷公会堂（1929 年竣工）と似ている。



名古屋市公会堂は、なにかと思い出がある。学部長のとき、ここで卒業式が行われた。卒業する予定の学生に不幸なことがあり、妹さんに卒業証書を手渡したことが忘れられない。

最近では 1 年半前の 11 月 3 日、ここで「憲法のつどい」が開催され、水田洋先生の挨拶のあと、岸井成格さんが「安倍政権とメディア—私の決意」と題し講演した。残念ながら、岸井さんはもういない。

次の写真は大阪弁護士会館 10 階から撮った「大阪市中央公会堂」。大阪都心の中の島にあり、その隣に図書館、市役所が見える。こうして上から公会堂を眺めるのは初めて。格調高い建物全体を見ることができる。この中央公会堂について『大大阪の時代を歩く』洋泉社、2017 年から紹介しておきたい。



大阪市北区中之島に建つ中央公会堂も大阪を代表する建築物の一つだ。まわりを川の水と緑の木々に囲まれた、ネオルネサンス様式の赤レンガの外観が美しい建物は、現在でも市民に親しまれている。

その誕生は、たった一人の人物の意志によるものだった。その人物の名は岩本栄之助。義侠の相場師と呼ばれた男だ。

栄之助はみずからが富むだけでなく、その利益をまわりに還元したいと考えていたようだ。その思いは 1909 年、渋沢栄一を団長とする実業視察団の一員として渡米したときにさらに強まった。アメリカでは多くの富豪たちが慈善事業や、公共事業に積極的に寄付していた。それが名士の条件の一つだったのだ。

これに強い感銘を受けた栄之助は帰国後、渡米中に亡くなった父の遺産 50 万円にみずからの財産を足し、1911 年、大阪市に 100 万円（現在の価値でおよそ 50 億円）の寄付を申し出た。これを基金として、中央公会堂の建設が始まることになる。当初は学校や公園などさまざまな案が出たようだが、公会堂に決まったのは栄之助の母親の「だれにでも使ってもらえるものを」というアドバイスがあったからだともいわれている。

(2018年6月4日)